

## 「研究科長賞」について

平野吉直 信州大学大学院教育学研究科長

信州大学大学院教育学研究科における「研究科長賞」は、2007年度に設けられました。この賞は、その年度に提出された修士論文の中から、研究科長が最も優秀と認めたものに授与され、卒業式・学位記授与式後の謝恩会で授賞式が行われます。昨年度までの受賞者及び受賞論文は下記の通りです。

- 2007年度 林 優希(学校教育専攻障害児教育専修) 『数学的スキルと注意記憶・空間・算数的感度との関係性に関する研究—算数困難児への支援方針の検討』
- 2008年度 岡村ゆかり(教科教育専攻社会科教育専修) 『法教育における「積み重ね」授業プロセスの理論と実践』
- 2009年度 駒井健吾(教科教育専攻英語教育専修) 『第二言語の付随的語彙学習における内容理解問題の効果』
- 2010年度 大和友則(学校教育専攻臨床心理学専修) 『熟達度の異なるカウンセラーにおけるカウンセリング・スキーマの比較検討』

受賞論文は、2008年度より本誌・教育学部研究論集に掲載され、公開されることになりました。昨年度(2010年度)受賞論文についても、本誌への掲載を予定していましたが、既に「信州心理臨床紀要, 2011, vol. 10」(信州大学教育学部心理教育相談室)に同名の題目で発表されたとのことです。そこで、本誌には掲載しないことになりましたが、例年同様に受賞理由を記しておきます。

本研究は、同一のカウンセリング場面に対する熟達者と初学者の認知と情報処理方略の違いを明らかにするため、cognitive mapping task を用いて量的・質的比較を試みています。この比較は、実証性を担保したデザインに基づいており、緻密で地道なデータの点検と解析に努めていることが感じられます。結論として、「熟達者の優れた認知能力は『メタ・スキーマの形成力』『因果性の洞察力』『認知的トレランス』の3点に集約される」と述べられていますが、これはカウンセラーにとどまらず、学校教育教員の専門性にも共通する教育研究上の意義深い知見であるといえます。オリジナリティのある質の高い論文であると評価しました。